



小池 芙美子さん

市保健所保健予防課課長。市民からの受診相談、検体の把握、感染者の聞き取りなど新型コロナの対応全般に当たる



岡本 克実さん

高崎市医師会会長として本市の医療に尽力。受診困難者を減らし、医療従事者の感染リスクを減らすための体制を整える



石原 弘さん

高崎総合医療センター院長。早くから陽性患者を受け入れた経験を生かし、連携医療機関と研修会などを開催



富岡 賢治市長

マスクや消毒液の配布、医療機関や医師会との連携、経済支援など、新型コロナウイルス対策に全力を挙げて取り組む



新型コロナウイルスの感染の勢いが全国でおさまらず、予断を許さない状況が続いています。本市では、帰国者・接触者外来を開設する高崎総合医療センターと、民間の主要病院との連携を確立。医師会の協力により発熱者の相談・受診体制を強化するなど、市民の皆さんが安心して医療を受けられる体制を整えてきました。今回は、医療現場の皆さんと市保健所の職員を迎えて、お話を伺います。

市長対談



市民の安心を支える本市の医療体制

新型コロナウイルスと闘う

患者の受け入れ体制を早急に確立
高崎総合医療センター

市長 新型コロナウイルス感染症の対応では、医療関係者の皆さんの尽力に本当に頭が下がります。最前線で大変な役割を担っていただき、感謝申し上げます。まず、石原先生、本市の医療の中核である高崎総合医療センターで、当初から陽性患者を受け入れていただきました。混乱の中で並大抵のことではなかったでしょうね。

石原 そうですね。2月初旬にクルーズ船の陽性患者を受け入れ、早々に院内の感染防御体制を整えました。苦勞はありましたが、そのおかげで今も完璧な防御ができていますよ。

市長 予断は許しませんが、本市では今のところ、医療崩壊とか病床数の不足ということはなさそうですね。

石原 今は問題ないですね。ちょうど新棟を増床したので、一病棟を全てコロナ専用に使っています。保健所とも協議して、重症患者用の個室を設けて他の患者は一切入れず、完全に振り分けています。

市長 看護師や臨床検査技師など多くの医療関係の方が、本当に献身的に携わってくださっています。感染の疑いで発熱外来を受診される方と他の患者さんが接しないよう、動線の確保などはどうされたんですか。

石原 市の補助をいただき、敷地の一角に発熱外来用のプレハブを設置しました。さらに簡易CT検査室も配備し

ていただいたので、エックス線では分からない肺炎像の有無も検査できます。この簡易CTは全国初なんですよ。

感染の疑いのある人と一般の患者さんの動線を完全に分けられます。
市長 私も現地を視察させていただきました。あれなら安心できますね。

受診困難者を出さない
医師会の新たな相談窓口

市長 高崎総合医療センターの発熱外来には、岡本さんの医師会にも協力していただいていますね。

岡本 医師会からも交代で医師を派遣しています。また医師会では5月に、土日の発熱者外来と平日の発熱者受診相談センターを開設しました。

市長 これは本当にありがたいことです。かかりつけ医がない人もいますし、熱が出た時にどこで診てもらえるのか、みんな不安です。それを電話一本で相談できて、どこで受診できるかを教えてくれるんですね。

岡本 はい。症状のある人を確実に受診につなげるために、一般の病院や診療所の役割分担を決めました。受診相談センターでは、まず電話で症状や経過などを事前にしっかり聞き取り、問診票を作成します。その上で受診していただく病院を決めて、取り次ぎます。

市長 素人の質問で申し訳ないのですが、PCR検査が必要なケースかどうかは医師が判断するんですね。
岡本 そうです。その判断を迅速にするために、先ほど申し上げたように症

状や経過などを事前に把握して、情報を医療機関に提供します。適切に診断し感染拡大を防ぐ上で、とても重要なんです。

市長 対応してくださる医療機関はどれくらいあるんですか。
岡本 市全域で60を超える医療機関で、曜日や時間を分担しています。

市長 助かりますね。
岡本 私どもも市からマスクや防護服などの物資を支援していただき、大変感謝しています。

PCR検査の現状と
抗体検査の可能性は

市長 市民の方から、希望者全員がPCR検査を受けられないかご意見をいただきます。私もいろいろ調べたのですが、検査機器を増やしても、正しく結果判定できる専門家が不足のため、簡単ではないんですね。現状ではPCR検査の検体を採れる医療機関は市内に何か所あるんですか。

小池 帰国者・接触者外来をお願いしている病院が5か所、その他に協力医療機関が3か所、計8か所です。さらに医師会に協力していただき、今後一般の病院でも採れるところが増える予定です。

市長 検体を受け入れている県の衛生環境研究所の状況はどうですか。
小池 今は民間の検査機関にも出しますので、受け入れ数に多少余裕はあると思います。ただ検査はあくまで医師の判断ですので、希望すれば誰でも受

接触者の追跡と検査の徹底で
感染拡大防止を

石原 行政にお願いしたいのは、とにかく濃厚接触者のPCR検査を徹底的に行うことです。そこを全部やっけないと気付かないうちに感染はどんどん広がります。

市長 そうですね。保健所ではかなり細かく接触者を確認していますね。

小池 本市在住の患者だけではなく、他市、他県の患者の調査依頼も数多く来ます。勤務先、学校、立ち寄ったお店など、濃厚接触が疑われる人は全て検体を探ってくださいませ。

市長 現在の感染は、市外で会食をした友人同士や、家族、職場の同僚といった濃厚接触者が多いという印象です。

石原 出張先での会食などもありますね。若い人の中には、重症化しないから大丈夫と思う人もいるかもしれませんが、他の人に感染させてしまう恐れもあります。

市長 感染源が特定できない地域的なクラスターの発生も心配です。
岡本 今のところ市内にそのような事例はありませんが、発熱相談の情報などを集約して、注視していくことが必要ですね。

小池 感染予防は手洗いとマスク、3密を避ける、これに尽きます。市民の皆さんには継続していただきたいですね。

市長 感染拡大防止のために、簡単な対策があるわけではなく、正攻法で行く他ありません。風評被害などが起きないように十分配慮しながら、接触者の追跡とPCR検査を徹底的に行ってくださいませ。今後に備えてマスクや消毒



医師会では5月から土曜・休日発熱者外来を開設。休日でも安心して受診できる体制が整っている

高崎総合医療センターの発熱外来に設置した簡易CT検査室。患者の動線を院内とは別にすることで院内感染の防止を図る

本対談は8月7日に行いました。新型コロナウイルス感染症に注意しながら、参加者の皆さんの理解を得た上でマスクを外して撮影しています

